

## 雲南での経験

私が初めて雲南に行きたいと思った理由は、フィールドスタディ入門の講義に矢田明子さんが来てくれたことです。矢田さんのとてもパワフルで、破天荒ともいえるような人生と雲南市の精力的な活動に惹かれ、まだ将来について何も決まっていなかった私でしたが、何か学べるのではないかと思います、参加しました。

研修1日目は、雲南市役所と波多地区に行き、お話を伺いました。市役所では、雲南市の様々な取り組みについて聞きました。私が想像していたよりも雲南市は高齢化が進んでいたり、人口減少が著しかったり、次の担い手がいなかったりと問題が山積していました。地方に多い問題で、ここも同じなのかなと思っていました。ですが、ほかの地方とは違い、役所の活動の多さに驚きました。まず、小規模多機能自治による住民主体のまちづくりです。これはそれぞれの地区で、世帯主だけではなく、1人1人が中心となって地区を治めていくというようなものです。各地区に常勤のスタッフが在中し、自治会で行うような生涯学習だけでなく、地域づくりや地域福祉など幅広い市民活動を支えていくというような場所になります。私はこうすることで、役所だけではなく、住民も自分たちの問題を理解し、課題解決に向けて活動的になるんだと、実際に波多地区に行ったことで感じました。利益などではなく、いかに住民が安心して生活できるかということが一番重要になってくるのだということも学びました。

他にも、雲南市では住民に限らず、雲南市で何かやりたい！という若者や大人や子どもの支援もしているとのことでした。雲南の住民だけでなく、外部の人を積極的に取り込んでいくという活動はすごいと感じました。全ての人が、雲南市に来れば、チャレンジを支援してもらえる可能性があるというのは、雲南の魅力だと思います。雲南市はまだまだ他にも活動を行っていて、どれも簡単にできる事じゃなく、市の協力があってこそで、住民に根付いた行政であるなと思いました。

2日目には矢田さんがいるNPOおっちラボで活動しました。そこで若者支援の話聞き、ぜひ参加してみたいと思いました。支援とは言っても、基本的には自分で考えて自分で活動するというものです。そこには、私が今まで考えつかなかったようなアイデアがいっぱいで聞いてるだけで楽しかったです。そんなアイデアを持つ人と過ごしたら、どんなに自分が成長できるんだろうなと思いました。これは雲南市で行われているものですが、このような組織は他の地にもあるべきだと感じました。若者で何かやりたい！でも資金の場所も仲間もなく、集め方もわからない。というような人はたくさんいると思います。そんな力を無駄にするのは、あまりにももったいないです。そんな気持ちを無駄にしないためにもこういった組織が全国で増えていったらいいです。話を聞いた後、おっちラボの手伝いで近所の方々にチラシを配りに行きました。知らない地の知らない大人におっちラ

ボの講演会のチラシを渡すというミッションでした。住民の方はおっちラボについて、また市の若者チャレンジの活動について、名前は聞いたことあるが何をやっているかさっぱり分らないという方がほとんどでした。これだけ、精力的に取り組んでいても、全ての人に周知してもらうためには、時間も手間もかかることを改めて痛感しました。興味のなさそうなお年寄りにどのようにアプローチするかが大事だと思いました。それでも、住民の方々はあたたかくチラシを受け取ってくれ、お茶に招いたりしてくれました。知らない人のお宅に突然押しかけることの緊張感もありましたが、すごくいい経験になったと思います。もちろん、人の温かみに触れることもできましたし、自分の自信にもつながりました。

3日目は、コミケアと訪問看護ステーション、温泉キャンパスに行きました。訪問看護ステーションはおっちラボの若者チャレンジの1つでそこから独立し、企業化されたものです。お話を伺って、その丁寧さに驚きました。高齢化や過疎化が進む雲南市では医療の問題も大きいものでした。小さな町の病院の医師は高齢化によっていなくなり、大きい病院まで行くには、車に乗れないような高齢者だと交通の便が悪く、丸1日かかってしまうというのが普通だそうです。身体が悪くて、病院に通えない人も多く、また、最期を自宅でなく病院で迎えなくてはならないというのも問題でした。この問題に立ち向かったのが訪問看護ステーションです。病院に通えない患者のところへ看護師が出向いて、医師や医学療法士との連携をとるものでした。病院では1つの病気に対し、治療法は1つですが、訪問看護はそうではありません。より、患者に寄り添った看護を行うために、患者1人1人の状態の変化や色々なことを常に把握しています。そのために1つの病気でも、患者さんによって治療法が違うということがほとんどようです。それには、莫大な時間もかかり、緊急用の電話があっても油断できなかつたり、全ての人で患者の情報を共有してはいてはけなかつたり、聞いているだけで本当に大変そうでした。でも、そのおかげでたくさんの方が助かっているということも分かりました。高齢化が進んでいる日本のこれからはなくてはならない医療の形だと思いました。

コミケアでは、地域のお年寄りと交流しました。小学生の時に交流に行ったデイサービスのようなものかと思ったら、全く違いました。お年寄りは80代90代なのにみんな元気で、とても大勢集まっていました。お茶をしながら話したり、運動をしたり、終始わきあいあいな雰囲気でもとても楽しかったです。運動の時間には、市からトレーナーが派遣されてきており、お年寄りの体力を衰えさせないために市がこんなこともやってくれるのかと驚きました。お年寄りの方々とお話しできたのは短い時間でしたが、みなさん本当に元気で、こっちまで元気をもらえました。とても楽しい時間になりました。

最後に温泉キャンパスに行きました。これは不登校の子供たち用の学校でその日も10人ほどの子がきていました。私はナイーブな子だから接触したらダメなんじゃないかと思っていました。しかし、職員の方が中を案内してくれて、子ども達とも話しました。そして、本当に素直な子達ばかりで何で不登校にならなくちゃいけないのかとても不思議でした。1人1人にそれぞれの理由がありますが、それでも不思議です。いつか普通学校に戻っ

てほしいと感じました。この、温泉キャンパスも市が運営しているものです。私も同じような活動を行っている団体を知っていますが、それはボランティア団体でした。そういったことから、やはり雲南市は本当に多くの活動を、住民のために、住民と一緒にやっているなと感じました。もちろん予算だったり、人権力だったり大切なものや崩せないものはたくさんあると思います。でも、私は雲南市で、色々なことに取り組む様々な人を見て利益や地位だけでなく、本当に人のことを考えて、やりたいことをやるということの大切さを学びました。3日間という短い研修でしたが、雲南に行けてよかったです。機会があればまた行きたいです。